

# めいか

令和3年10月29日

文京区立明化幼稚園

## 心と体が育つ秋

園長 野田 久美子

木の葉が色付き始め、秋が深まってまいりました。

保護者の皆様には、明化オリンピックにご参会いただき、ありがとうございました。子どもたちは皆様に温かく見守っていただき、安心して力を発揮することができました。人数制限等、ご不便をおかけしましたが、ご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

明化オリンピックを経験した子どもたちは、行事の余韻を味わいながら幼稚園で思い思いに遊ぶ姿が見られます。

年長にソーラン節を教えてもらった年少児は、自分たちでカセットテープを操作しながら繰り返し踊ることを楽しんでいます。年長の動きをよく見ていたと感心してしまいます。

虫が好きな年中児は、羽を付けて虫になりきって動くとともに、小さい虫を作り、虫の家や食べ物を作ったり小さい虫を動かしたりしながら遊んでいます。「ここが玄関ね」と同じ場にいる友達と同じ動きをすることを楽しんでいます。

年長児は、「また、みんなで何か楽しいことをしたいね」という担任の投げ掛けに、「年少さんや年中さんと呼んでお店屋さんをしよう」「ゲームもしたい」「乗り物も作って乗せてあげたい」「先生たちも招待しよう」と意見が出て、めいかまつりと名付けたごっこ遊びをすることにしました。皆で出し合ったものの中から自分のやりたいことを選び、4～6人のグループに分かれて準備します。「たくさんお客さんが来るからポテトをたくさん作らないと…」「100個あったらいいんじゃない」「そんなにいらないよ、50個くらいかな」など、グループの友達と遊びに必要なものを考え、一緒に作ったり役割を分担したりしながら進めています。めいかまつりでは、年少組や年中組を招待し、喜んでもらうことで満足感を味わうことでしょう。

幼稚園教育要領の幼児期の終わりまでに育ててほしい姿の一つに協同性というものがあります。そこには、『友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる』と明記されています。今後も、様々な活動を通して、このような育ちを支えていかれるよう努めてまいります。



「ソーランソーラン♪」（年少組）



「ぼく、コオロギ」（年中組）



「ポテトできたよ」（年長組）